

◦ 3月31日 (火) 掲載

【#おうち時間で実篤を知ろう 休館篇】

4月12日までの臨時休館にともない、春季展「新収蔵品展」もひと休み中。展示ケースに並ぶ作品や資料も心なしかしょんぼりした様子です。ということで、本日から出品中の作品・資料を少しずつ紹介していきます。

春季展「新収蔵品展」は会期中に予定していた2回の展示解説も中止となりました。解説でお話ししようと思っていた作品・資料にまつわるエピソードなども、この場で紹介していきます。

ところで、本展ポスターの文字には工芸品が4つあるのですが、気づきましたか？

これも学芸員のこだわりポイントです。



春季展

新収蔵品展

2020 * 3月28日[土] - 4月12日[日]は臨時休館
3/14[土] ▶ 4/19[日]

当館では1985年（昭和60年）の開館以来、日頃から資料の収集・保存に努め、現在では、美術品や文学資料、図書、雑誌、印刷物などおよそ6万点を所蔵しています。

本展覧会では、2016年4月から2020年3月に新しく収蔵された作品・資料を紹介するとともに、調査によって明らかになった成果を報告いたします。明治、大正、昭和、平成、そして令和と所蔵者によって大切に保存されてきたものを、これからの時代に伝えていく一助といたします。

展示解説
* 新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催中止
3/27[金]
4/11[土]午後1時30分から約45分間
申込みはいりません。展示室にお集まりください。
* 今後開催中止となる場合があります。
— 最新の情報は当館HPやツイッターをご覧ください。 —
— お電話でお問い合わせください。 —

**武者小路実篤
記念館**
調布市
一般財団法人 調布市武者小路実篤記念館
〒182-0003 調布市若葉町1-8-30 TEL: 03 (3326) 0648
最寄り駅: 京王線「つつじヶ丘駅」または「仙川駅」下車。
徒歩約10分 休館日: 月曜日 (月曜が祝日の場合は直後の平日)
開館時間: 9:00 - 17:00 入場料: 大人200円、小・中学生100円

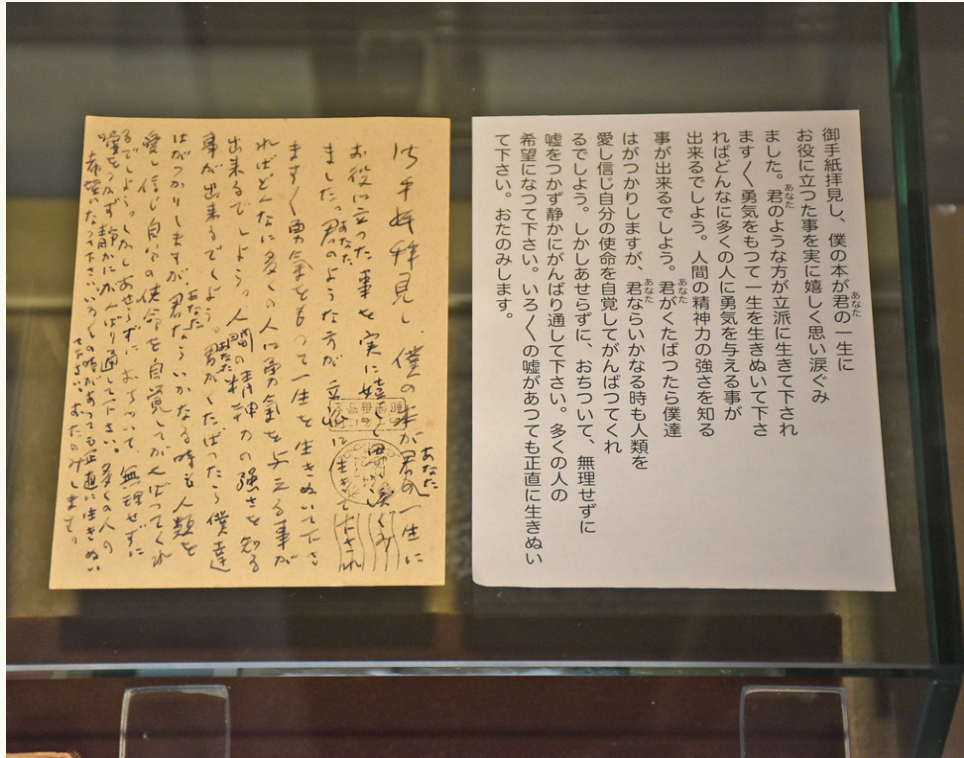


おうち時間で実篤を知ろう >> 新収蔵品展をおうちで見よう (1)

。3月31日(火) 掲載

【#おうち時間で実篤を知ろう 27】

「僕の本が君の一生にお役に立った事を実に嬉しく思い涙ぐみました」と始まる手紙は、愛読者からの手紙に実篤が自ら返信したもの。受け取った方はとても大切に、長年、手元においていたといひます。



〈資料情報〉

武者小路実篤より愛読者あて書簡

昭和44(1969)年10月7日消印

ハガキ・ペン



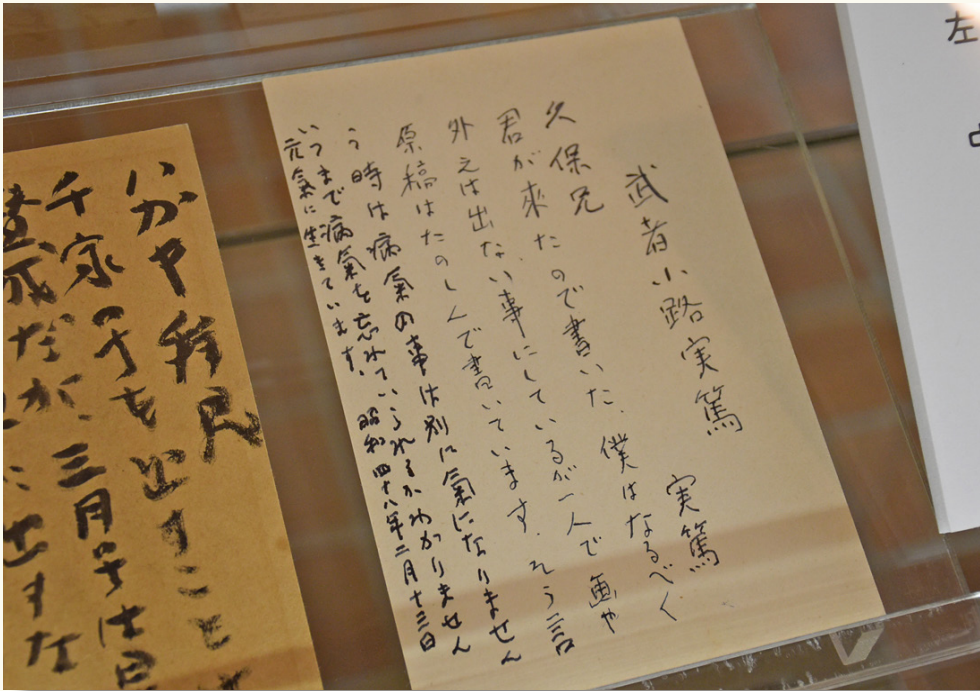
おうち時間で実篤を知ろう >> 新収蔵品展をおうちで見よう (1)

◦ 4月1日 (水) 掲載

【#おうち時間で実篤を知ろう 28】

実篤の人柄をあらわす手紙をもうひとつ紹介。この手紙は宛名面には何も書いてありません。「君が来たので書いた」とあるように、新しき村会員が実篤の家を訪問した際に手渡したもののようです。

この時、実篤は 87 歳。実際に会うのに手紙も書くというのが実篤らしいですね。



〈資料情報〉

武者小路実篤より新しき村村外会員あて書簡

昭和 48 (1973) 年 2 月 13 日

ハガキ・ペン



おうち時間で実篤を知ろう >> 新収蔵品展をおうちで見よう (1)

◦ 4月2日 (木) 掲載

【#おうち時間で実篤を知ろう 29】

当館に収蔵となる手紙は実篤のものだけではありません。これは近代日本のグラフィックデザインを代表する杉浦非水（すぎうらひすい）の年賀状。雑誌『白樺』の発行元でもあった出版社・洛陽堂社主の旧蔵品です。

1918年は午年(うまどし)なので、馬がデザインされています。こんな素敵な年賀状が届いたら、作品として飾りたくりますね。



〈資料情報〉

杉浦非水より洛陽堂あて年賀状 大正7(1918)年正月 ハガキ・木版か

【#おうち時間で実篤を知ろう 30】

文学者・吉屋信子が洛陽堂社主に送った手紙。なんと「富士山」の消印があります。山の上の寒い小屋に泊まって月がすごかったこと、今朝山頂に着いたことを報告しています。



〈資料情報〉

吉屋信子より洛陽堂社主あて書簡 大正9(1920)年7月27日消印 ハガキ・ペン
小御嶽神社(北口登山実況)



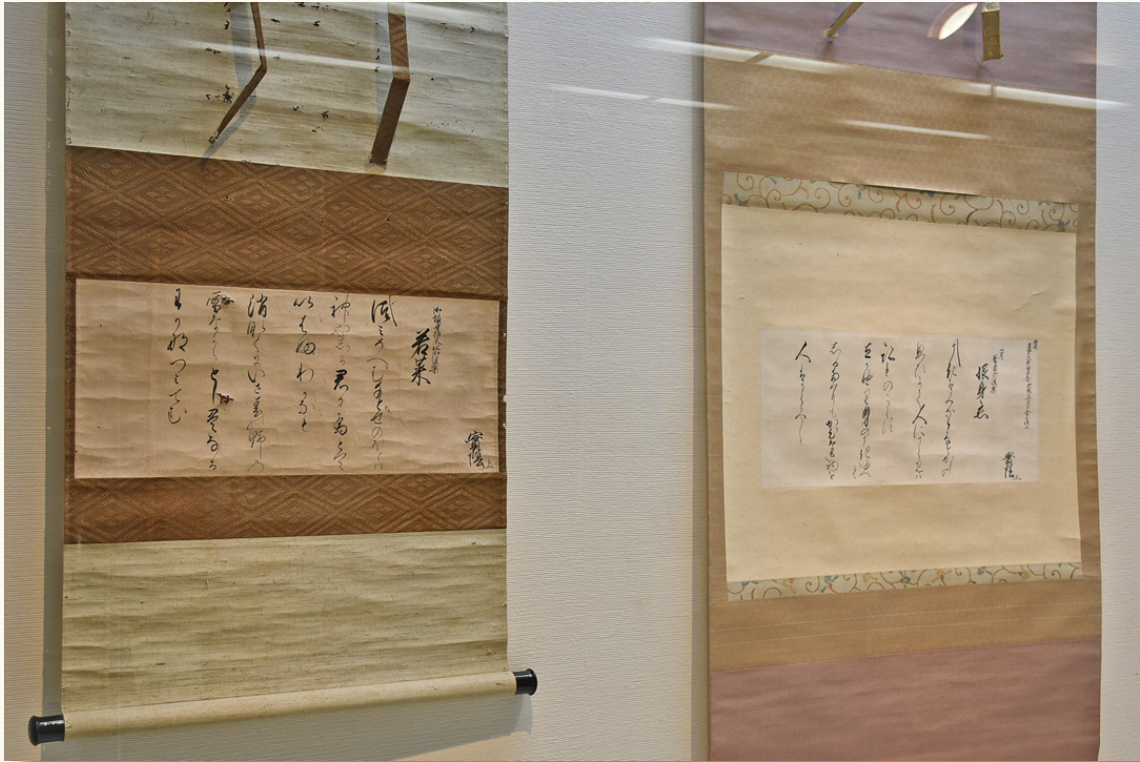
おうち時間で実篤を知ろう >> 新収蔵品展をおうちで見よう (1)

◦ 4月3日 (金) 掲載

【#おうち時間で実篤を知ろう 31】

武者小路家に代々伝わってきた名品を紹介。2代・実陰（さねかげ）の書、右から「恨身恋」「若菜」の和歌です。享保の文字が確認できるので、書かれてから280年ほど経っていることが分かります。

実篤の兄・公共（きんとも）が11代。実篤が生まれ育った実家は関東大震災で焼けているので、何らかの形でそれをも免れ、今に残っているのですね。



〈資料情報〉 右から、
武者小路実陰「恨身恋」
享保16年6月25日か 紙本墨書

武者小路実陰「若菜」
享保年間か 紙本墨書



おうち時間で実篤を知ろう >> 新収蔵品展をおうちで見よう (1)

◦ 4月4日(土)掲載

【#おうち時間で実篤を知ろう 32】

展示室に入って一番に目に入る正面のケースには、展覧会の花形が顔を揃えます。右から88歳、81歳、88歳、90歳の作品。どれも味わい深い作品です。



〈資料情報〉右より、

武者小路実篤「林檎と蜜柑」 1973年 紙本墨画淡彩

武者小路実篤 多紐壺と菊 1966年 紙本墨画淡彩

武者小路実篤「福寿」1973年 紙本墨書

武者小路実篤 向日葵「美愛真」1975年 紙本墨画淡彩



おうち時間で実篤を知ろう >> 新収蔵品展をおうちで見よう (1)

◦ 4月4日 (土) 掲載

【#おうち時間で実篤を知ろう 33】

デパートで手に入れ、長年、床の間に飾って楽しんでいたというこの作品。フォクシングという染みがありますが、長く飾っていると少なからず発生するものです。実篤作品が家庭のなかで愛されてきた証とも言えます。

今日、おうち時間で実篤を知ろう 32 と 33 で紹介した実篤の絵にある署名を見比べると「実」と「實」2種類あるのに気づきましたか。実篤は、80歳までは「實篤」、80歳以降は「実篤」に満年齢を書き添えたのです。



〈資料情報〉

武者小路実篤「天命のまゝに生るもの万歳」

紙本墨書淡彩



おうち時間で実篤を知ろう >> 新収蔵品展をおうちで見よう (1)

◦ 4月5日 (日) 掲載

【#おうち時間で実篤を知ろう 34】

小さすぎて出品する機会が少なく、今回の晴れの舞台にとっても張り切っている作品たちを紹介。写真2枚目、馬鈴薯と玉葱に「内に生命あり 時来れば芽を出す也」と讚のある絵は、色紙を6分の1に切ったものなのです。



〈資料情報〉 右から
全て紙・鉛筆・水彩
花 1969年 / 林檎 1962年



〈資料情報〉 上から
全て紙本墨画淡彩
蜜柑 / 花「この世は美と愛の無盡(むじん)の宝庫也」 / 馬鈴薯 /
馬鈴薯と玉葱「内に生命あり 時来れば芽を出す也」 / 苺「天工に人工の加わったもの美し」



おうち時間で実篤を知ろう >> 新収蔵品展をおうちで見よう (1)

◦ 4月5日 (日) 掲載

【#おうち時間で実篤を知ろう 35】

57歳の自画像に「燈火の下 17.6.16 朝五時」と書き添えられており、いつ描かれたかだけでなく、どんな状況で描いていたのかも分かる一作です。あかりに照らされているところは黄色い絵の具で表現しています。

朝5時に描きあげているとは、実篤は早起きですね。



〈資料情報〉

武者小路実篤 自画像

昭和17(1942)年6月16日朝5時

紙・鉛筆・水彩



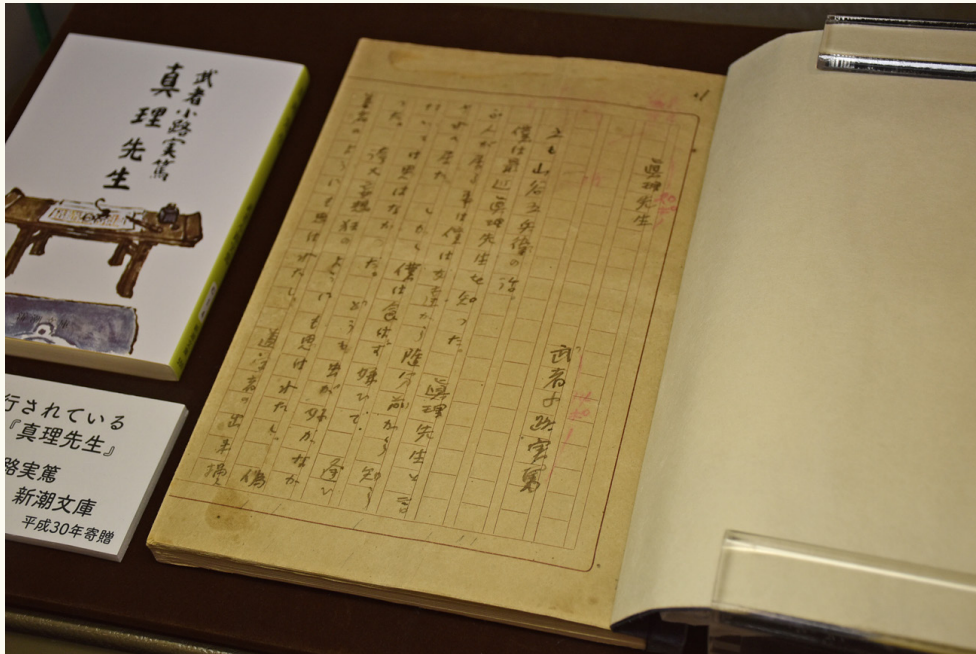
おうち時間で実篤を知ろう >> 新収蔵品展をおうちで見よう (1)

◦ 4月7日 (火) 掲載

【#おうち時間で実篤を知ろう 36】

実篤の代表作のひとつ「真理先生」。9冊に綴じられた原稿をよく見ると、大きさがバラバラなのが分かりますか。執筆した昭和24-25年頃は戦後の混乱から紙が不足し、原稿用紙を揃えることが難しい時代でした。

よく見ると1冊のうちで紙の色が異なる原稿もあります。紙不足については、本にも似た例があり、全てとは言えませんが、第二次世界大戦末から戦後すぐに発行された本の紙は、ザラザラしたもの、破けやすいものが時々見られます。



〈資料情報〉

武者小路実篤「真理先生」原稿
昭和24年1月-25年12月発表



おうち時間で実篤を知ろう >> 新収蔵品展をおうちで見よう (1)

◦ 4月8日 (水) 掲載

【#おうち時間で実篤を知ろう 37】

出版社で実篤を担当していた編集者からご寄贈いただいた資料を紹介。実篤は、本の表紙の題名を自ら書くことがあり、原本はこんな感じです。実篤が編集者へ校正を送った封筒も大事に残されていました。

「日本」「日本」「日本の偉」と何度も書き直す姿を想像すると、がんばれーと応援したくなりますね。



〈資料情報〉 左

「日本の偉 (すぐ) れた人々」

・題字 紙本墨書

・本 昭和16年発行 河出書房

〈資料情報〉 右

「人生と芸術」

・題字 紙本墨書

・本 昭和16年発行 河出書房

「笛吹く男」

・題字 紙本墨書・ペン

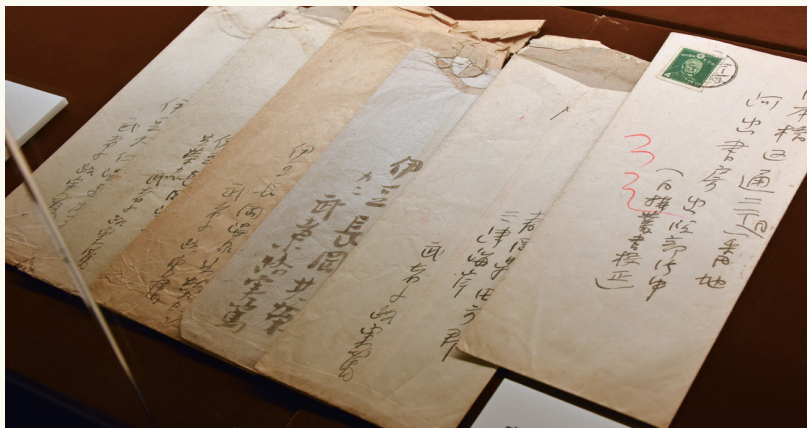
・『人生と芸術』収録作品



〈資料情報〉 左

武者小路実篤より編集者あて封筒(6枚)

昭和15-17年



おうち時間で実篤を知ろう >> 新収蔵品展をおうちで見よう (1)

◦ 4月9日 (木) 掲載

【#おうち時間で実篤を知ろう 38】

今回の展示の目玉資料のひとつ、1936年、実篤が51歳の時にヨーロッパとアメリカを旅行した時の日記です。五輪ベルリン大会の観戦、様々な美術館を巡った感想などが細かに書き残されています。

ここでは2冊だけですが、日記は全部で5冊あります。赤い小さな手帳はハンブルクアメリカラインという船会社のもの。乗船中は時間がたっぷりあることから、実篤は船中で日記を書くことが多かったと言います。



〈資料情報〉

武者小路実篤「欧米旅行日記」原本
昭和11(1936)年5月-11月

実篤の欧米旅行は1936年4月27日に横浜を出港し、神戸、上海を経由して、6月6日にフランス・マルセイユに上陸。汽車などでヨーロッパを巡った後、イギリスへ渡り、11月14日ニューヨークに到着。11月27日サンフランシスコを出発し、ホノルルを経由して12月12日に帰国しました。



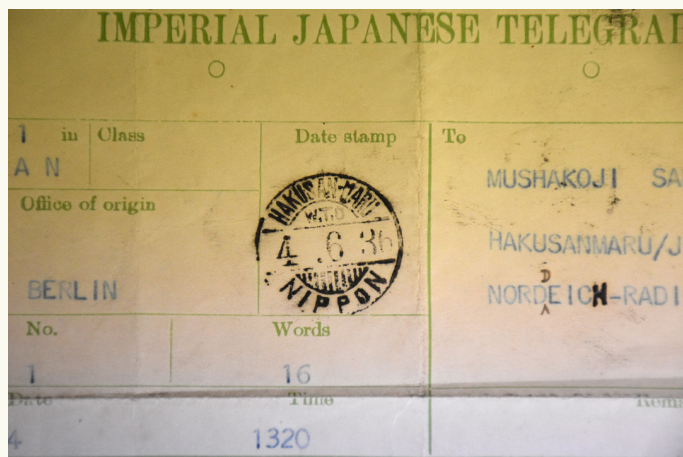
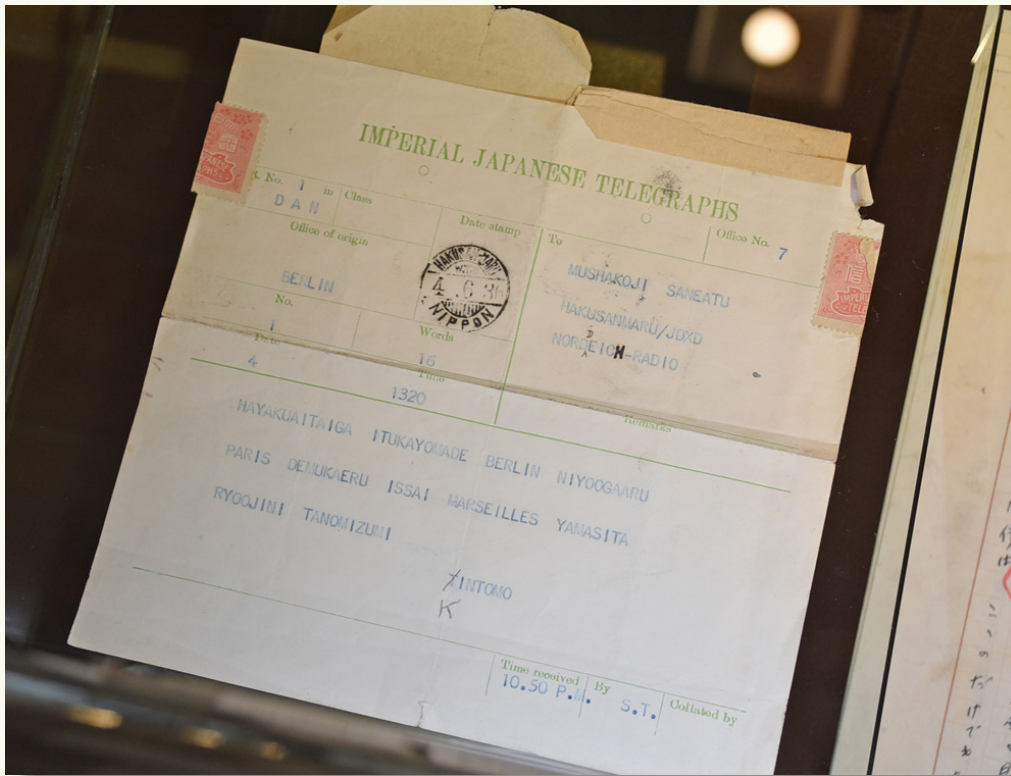
おうち時間で実篤を知ろう >> 新収蔵品展をおうちで見よう (1)

◦ 4月10日 (金) 掲載

【#おうち時間で実篤を知ろう 39】

実篤の欧米旅行からもう一つ紹介。ヨーロッパへ行く船中の実篤に、兄・公共 (きんとも) が送った電報です。早く会いた
いが用があるのでパリで出迎えるとローマ字で書かれています。

電報にも消印が押されることに珍しさを覚えながら、よく見ると、船の名前「HAKUSAN-MARU (白山丸)」の消印です。
兄の公共は当時ドイツ大使をしていて、実篤にこの旅を勧めた人物でもあります。



〈資料情報〉

武者小路公共より実篤あて電報

1936年6月4日消印



おうち時間で実篤を知ろう >> 新収蔵品展をおうちで見よう (1)

◦ 4月11日 (土) 掲載

【#おうち時間で実篤を知ろう 40】

今回は絵とモチーフを比べてみましょう。蜜柑と慈姑(くわい) がる器は「バガジ」という道具。目で見たまの美しさを紙面にそのまま描き写したいという実篤の言葉を感じることができる一作です。

筆と墨で描くにはちょっと大変なのではないかなと思うほど、細かい部分まで描き込まれていますね。



〈資料情報〉右より、
バガジ 実篤愛蔵品
武者小路実篤「蜜柑と慈姑」紙本墨画淡彩

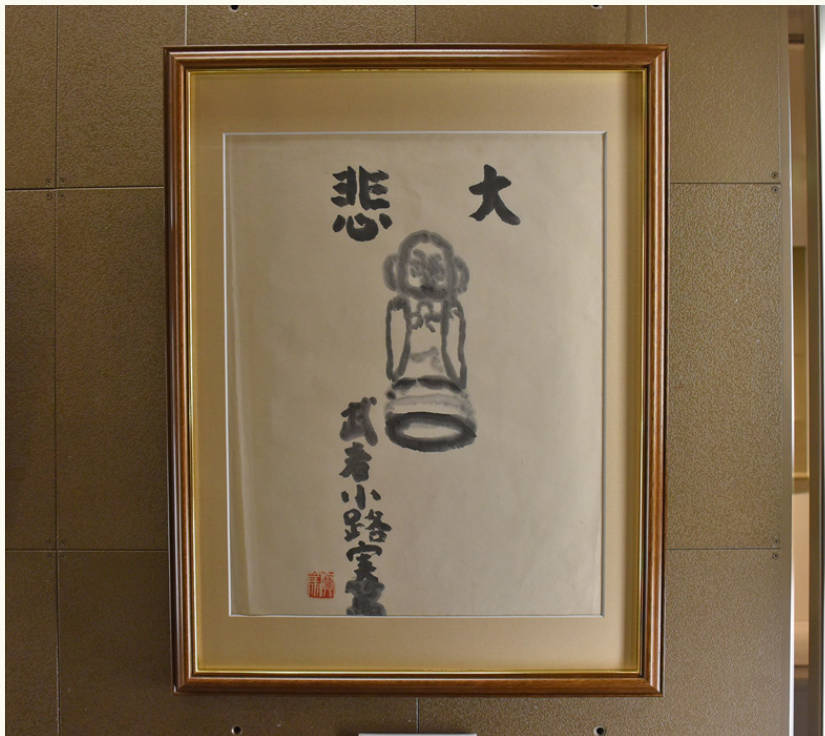


おうち時間で実篤を知ろう >> 新収蔵品展をおうちで見よう (1)

◦ 4月12日 (日) 掲載

【#おうち時間で実篤を知ろう 41】

最晩年の実篤が描いたこの絵。普通は見えないはずのある部分が描かれています。制作中に撮影した写真を見てみましょう。机に像を寝かせて描いたので、底の部分がしっかり描き込まれているのです。



〈資料情報〉 左
武者小路実篤「大悲」
昭和 50 (1975) 年 紙本墨画

〈資料情報〉 右
久保義信撮影
昭和 50 (1975) 年

